

基本理念

低炭素社会モデルの実現 ----- エコロジーや省エネルギーによる低炭素モデルエリアを構築する
“地域力”の向上 ----- 学習、雇用、産業、集いなどの機能を導入し、地域の活力の更なる向上に役立てる
まちづくりとの連携 ----- さまざまな上位計画や整備事業と連動し、よりよいまちづくりに貢献する

必要な視点

- **ライフスタイルを変える**
 - ・共感性がなければ人間の行動は変わらない(学び合う場と仕組みが重要)
 - ・気づき、学び、コミュニケーションに重点を
- **ごみ減量につなげる**
 - ・廃棄物は資源である。
 - ・ごみ減量化を促してCO2削減、低炭素社会につなげる。
 - ・ごみを減らすようなライフスタイルに変えていくきっかけ(気づき・学び)をつくる。
 - ・ごみ問題に興味がないにも目を向けてもらえるように人にも目を向けてもらえるように。

対象

- 広く全市民
- ・子供への教育は重要(大人にも影響する)
 - ・生活に関心の高い主婦層へ働きかけ
 - ・ごみ問題に興味のない人

学び(気づき・発見・共感)

- ・体験型の見学。自分がごみになって処理される過程を体験する。ごみは臭いという強烈な体験になる。
- ・子ども達を集めて科学実験をやって関心につなげていくような工夫、情報提供も必要。
- ・小学4年生の社会科見学をきっかけに小中高大とつなげていくことが必要。
- ・子どもにアニメーション等の映像で工夫して、印象に残す。
- ・子どもたちでも地域の課題を発見して発信やアピールができ、学び合えるような仕組みを。
- ・ごみ問題に興味のない人を呼び込む工夫を(イベントやワークショップなど)

- 参加体験型の講座・講習(出前・アウトリーチも)
- 参加体験型の展示・見学
- 参加者が学び合える仕組み

機能(事業内容)

創造(リユース・リサイクル・アップサイクル)

- ・市民にごみ減量に向けた行動を促す場に。(うながす・ひろげる)
- ・リサイクル品を譲り合えるプログラムを。
- ・リサイクルフェアの開催(資源回収、フリーマーケット、リサイクルに関する各種企画)
- ・エコプラザで使う什器等は長く使える品(ロングライフデザイン)を揃え、市民に紹介。
- ・リサイクル施設での作業内容を見せたり、体験できたりするような工夫を。
- ・リサイクル工房ではリサイクルだけでなく、リユースの大切さを伝えることが重要。
- ・単に再生品を利用するだけでなく体験できるようにする(家具の修理などを教える人から、参加者自らも技術を学び、ものを作ることができる場所)。
- ・ものづくりの基礎体力を高める場所に。
- ・単なるリサイクルやリペアでなく、デザインや使い勝手の改良や、改善の相談対応を。
- ・リサイクル機能に創造的工夫を加え、学び・コミュニケーションに繋げることで啓発になる。
- ・基本的なプログラムはしっかり考えつつ、アウトプットは遊び心を持たせる。例えば、アーティストと素人が廃材を使ってリペア対決し、投票で公開評価するなど。
- ・素材とアートの結びつき、コラボレーションにより新たな価値を生み出すことができる。
- ・空き家を壊さずに有効活用できる仕組みができれば、ごみ減量になり、「若い人が住めるまち」、「壊さないで住めるまち」につながるのではないか。
- ・空き家活用など具体的なプロジェクトを試行し、フィードバックさせるとよい。

- 不用品・廃材の収集・保管・修理・加工(アップサイクル・クリエイティブリユース)
- リサイクル・アップサイクル品の展示・販売、素材の提供
- 修理・リサイクル・アップサイクル系の講座・講習会
- 不用品交換掲示板、かえっこ、フリーマーケット

コミュニケーション(交流・ネットワーク・情報発信)

- ・全ての市民が利用する場に。共用スペース・貸しスペースがあるとよい。(つかう・ふれあう)
- ・ボランティアの手作りのカフェ。おしゃべりしながら情報交換、小物の手作りを教わるなど。
- ・市民のしたいことをサポートする場に。場所やファシリテーションなどを通じて市民のやりたいことを支援する市民事業ができれば。(ささえる・はぐくむ)
- ・使わなくなった品を持つ人の悩みを聞き、リペアやアップサイクルなど捨てずに活用できる方法を一緒に考える。
- ・日常の具体的な活動のサポートが必要。不要になったものの悩みを相談できる場など。
- ・エコプラザだけで目標は達成できない。ネットワークを結び発信していくことが大事だ。
- ・市内で活動している人々のネットワークの核になるものを。
- ・大学のサテライトとして学生に部室を提供し、連携を取る。
- ・クリエイターに工房スペースを貸し出して、ものづくりや地域課題に取り組んでもらう。
- ・広報誌(環境情報誌)の発行。地域のエコ活動、暮らしのエコ、エコ商品、イベントなど。
- ・広報誌に地域の出来事に関する記事を掲載(世田谷ものづくり学校の例)。
- ・幅広く人を集める方法としてイベント実施が必要。
- ・色々な問題について実行委員会などでお祭り化し、色々なパターンの人たちを集める。人が集まることが情報発信になり、人と人とのつながりも生み出せる。

- 広報誌の発行
- カフェの運営
- 活動場所の提供、交流スペース
- 市民の活動サポート、困りごとの相談窓口
- 市民や団体のネットワークづくり

運 営

- 市内の NPO や市民団体を中心としたネットワークを活かした柔軟な運営を。
- 環境に取り組んでいる他の施設や周辺公共施設との連携。
- NPO、民間企業など、先行事例のさまざまな運営形態から学ぶ
- 運営主体になるような人たちや組織を育てていくことが大事。
- 真剣に取り組む人たちが地域で市民や組織を巻き込みながらネットワークをつくっていくことが必要。
- 皆で議論しながら時代に合わせて内容を変えていける柔軟な仕組み・運営を。
- 環境啓発の事業を創意工夫で提案していけるような人材を選んでいく。
- ネットワークや地域力を重視して運営主体を考えていくためには、市内の環境活動団体どうしの話し合いの場が必要。
- 施設のインタープリター（案内員・解説員）や運営を担うファシリテーター・コーディネーターとなる人材を発掘・育成していくことが重要。
- 全ての市民が利用でき、市民のしたいことをサポートする場としての運営

- 市民、市民団体、地域とのネットワークを活かす
- 他の公共施設との連携
- 福祉・教育分野との連携
- 運営の担い手（人材、組織）を育てる
- 柔軟な運営形態

空間配置

- 人を集めるという意味でハードとしての建築も重要。プログラムに合った良い建築を実現できれば、魅力的なまちづくりにつながる。
- プラットホーム等の特徴的な既存空間の活用が重要。
- プラットホームの空間の使い方については、単なるリサイクルでなく「啓発」するという意味で考えていきたい。
- プラットホーム全てを家具リサイクル系に使うのはもったいない。コミュニケーションの場にも活用すべき。
- 全市民の廃家具を受け入れてリサイクルするにはスペースが狭いだろう。
- リペア工房を設けるなら、採光や換気等の設備が必要。
- クローズにせず、中の様子を見られる配慮や工夫。
- バリアフリー化が必要。
- 人の動線を考えた配置が必要。
- コミセンや町会で不足がちな、大人数が入れて多目的に使える部屋がほしい。
- 普段は小さな部屋を一時的に広く使えるような工夫を。
- イベント広場に向けた広い空間があるとよい。イベント時に一体で利用できる。東側の壁が開放的になれば。
- フロアごとに機能（学び・創造・コミュニケーション）を分けると分かりやすいのでは。
- 哲学や理念が希薄なままレイアウトを考えても中途半端になってしまう。
- 限られた空間を有効利用するには、事業内容もある程度絞り込む必要がある。

- プラットホームの有効活用
- 人の動線を考えた設計
- 広場との連続性
- バリアフリー化
- 工房スペースの環境
- 多目的に使えるスペース